

【163】

氏名	東 野 み ど り
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3244号
学位授与の日付	平成10年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Muscle Fiber Changes of the Vastus Medialis in Rheumatoid Patients (慢性関節リウマチ患者における内側広筋の筋線維所見)
論文審査委員	教授 村上 宅郎 教授 横野 博史 教授 佐々木順造

### 学位論文内容の要旨

慢性関節リウマチにおける筋萎縮の病態を知る目的で、RA患者の大腿四頭筋内側広筋の組織学的検索を行い、移動能力やステロイド長期投与との関連を検討し、OA患者とも比較検討した。対象はRA23例29膝およびOA13例16膝で、全人工膝関節置換術の際内側広筋を採取し、ATPase染色を行った。筋線維はタイプ別に分類し、type II / type I の1本の面積比と総面積比を調べた。また、ステロイド長期投与の有無との関連も検討した。RA群では移動能力が低下するに従い、総面積に対するtype II 線維の割合が増加する傾向がみられた。また、ステロイドの長期投与例は非投与例およびOA群と比較して、総面積に対するtype II 線維の割合が著しく増加していた。筋線維1本の面積比では、type II 線維はtype I 線維に比較して萎縮しており、大小不同がみられたが、移動能力に関しては明らかな傾向は認められなかった。RAにおける筋萎縮の病態は、廃用性萎縮によるものだけでなく、ステロイド投与による影響やRA自体の病態との関連があると考えられた。

### 論文審査結果の要旨

本研究は慢性リウマチ患者の大腿四頭筋内側広筋を組織学的に検討し、その結果として「慢性リウマチ患者における筋萎縮は、廃用性萎縮によるものだけでなく、ステロイド投与による影響や慢性リウマチ自体の病態との関連がある」ことをはじめて明らかにした。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。